

金融向け派遣料高止まり

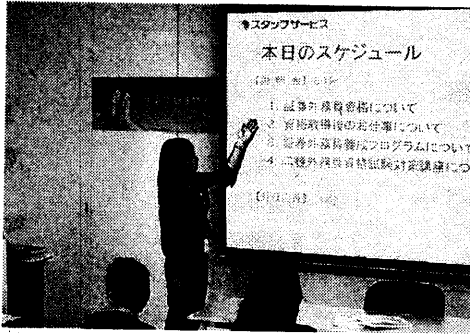
小口販売強化で求人増

金融機関向けの人材派遣料金が高止まりしている。金融商品のリテール（小口販売）強化の動きに伴い金融機関の業務量が増大し、求人が伸びているためだ。一方で、働き手となる人材会社の登録スタッフは、金融商品に関する知識や経験も必要になるだけに、条件を満たす人材の不足感が強く、需給が引き締まった状態が続いている。

金融機関向けの派遣スタッフの料金は現在、首都圏で一時間当たり二千二百〜二千七百円（交通費別）。人材需要の伸びを映し、一年前と比べ一〜二%高い。

金融商品の販売強化に伴い、伝票処理などバックヤード（後方事務）部門の人手不足感が強まっていることが派遣スタッフの求人増加につながっている。金融商品に関する知識が問われるため、金融機関での勤務経験者が求人条件となっているケースが多い。ただ必要な人数の確保が困難

でも雇用される例が増えている。金融商品の販売担当者に派遣スタッフを活用するケースも目立っている。この場合、証券外務員資格を取得していることが条件となる。料金はバックヤード部門では同二千二百〜二千三百円の



スタッフサービスは受講費用無料の証券外務員養成プログラムを実施

水準に集中しているが、資格取得者は同二千三百円以上となっている。求人は伸びているが、人材各社の新規登録者数

は伸び悩み傾向にある。このため各社は、金融機関での勤務経験がない人材に研修を通じて必要な知識を身に付けさせたうえで派遣する取り組みを進めている。

スタッフサービス（東京・千代田）では同社の派遣スタッフとしての登録などを条件に、資格取得のための専門学校を受講費用を無料にする証券外務員養成プログラムを実施している。

テンプスタッフでは二月にも予定される商品の銀行窓口販売全面解禁を視野に、コンサルティンク会社と共同で設立したテンプスタッフ・ライフアドバイザリー（東京・千代田）を通じて保険商品販売員となる派遣スタッフを養成している。研修内容も派遣先として予定されている銀などキメの細かい育成型行に合わせた内容にする派遣に力を入れている。